

# 離島の振興を促進するための笠岡市における産業の振興に関する計画

平成 28 年 4 月 1 日作成

岡山県笠岡市

## 1 計画策定の趣旨

笠岡市は、岡山県の南西部に位置し、西は広島県福山市と隣接しています。北部は緑豊かで、南部は瀬戸内海国立公園として大小約 30 の島々を有する自然に恵まれ、温暖少雨の典型的な瀬戸内海型気候にあり、とても住みやすい環境にあります。

観光文化の面では、風光明媚な笠岡諸島を有しており、夏には海水浴場として多くの海水浴客で賑わう観光スポットがあります。広大な笠岡湾干拓地には、観光情報発信の拠点となっている道の駅「笠岡ベイファーム」があり、隣接する花畑には四季折々の花々が咲き誇ります。また、世界に一つしかないカブトガニ博物館や日本画家・小野竹喬の画業を伝える竹喬美術館など、誇れる文化施設があり、多くの人に親しまれています。

交通の面では、山陽本線 JR 笠岡駅を有し、笠岡諸島の玄関口である笠岡港にも近く利便が良くなっています。また、幹線道路として、国道 2 号が市域を横断し、高速道路山陽自動車道の笠岡インターチェンジもあるなど、自動車での交通利便性にも恵まれています。

このような、地理的・気象的・利便性に恵まれた環境の中で、笠岡市は、市内の人には「ずっと住み続けたいまち」、市外の人には「住んでみたいまち」と思っていたくような施策を展開してきたところです。

しかし、笠岡市が合併により現在の市域となった昭和 35 年以降の人口推移をみると、合併後の 5 年間は 7 万人台で推移していましたが、昭和 40 年及び 41 年に急減して以降、昭和 40 年代後半の団塊ジュニアのベビーブーム及び平成 5 年から平成 8 年にかけて大規模な住宅用地の造成によって人口が増加した時期を除き、笠岡市人口は減少し続けています。平成 12 年には 6 万人を割り込み、平成 26 年の人口は 51,000 人台にまで減少しています。

こうした中で、笠岡市では人口減少社会の到来を見据えて、国や他市町に先駆け、平成 21 年度に定住促進センターを開設し、「定住促進ビジョン」を策定しました。そして、平成 22 年度からスタートした「第 6 次笠岡市総合計画」では、「定住促進」を最重要課題と位置づけて、市民と協働しながら、市政のあらゆる分野で定住促進施策を展開することによって、住みたいまち、ずっと住み続けたいまちを目指しています。

また、笠岡市が従来から力を入れている「教育」、「子育て支援」に加え、地域経済の活性化に向けた産業振興の指針及び具体的施策を盛り込んだ「産

業振興ビジョン」を平成 26 年 3 月に策定するなど、諸施策に重点的かつ戦略的に取り組んでいます。

しかしこのような取組にも関わらず、離島地域である笠岡諸島では過疎化と高齢化が急進し、平成 12 年に 3,187 人であった人口は、平成 22 年には 2,166 人と、10 年間で約 2/3 に減少しています。また、高齢化率については、同 10 年間で 49.3% から 63.0% に増加しています。（下表のとおり）

区分	面積	平成 12 年国勢調査			平成 17 年国勢調査			平成 22 年国勢調査		
		人口	世帯数	高齢化率	人口	世帯数	高齢化率	人口	世帯数	高齢化率
高 島	1.05	140	64	50.7	129	64	56.6	94	51	59.6
白石島	2.96	772	355	51.8	672	325	58.0	581	300	62.1
北木島	7.49	1,562	764	46.8	1,222	660	58.8	1,027	577	63.5
真鍋島	1.49	390	188	54.6	312	163	64.1	277	147	60.3
小飛島	0.30	27	18	70.4	26	18	69.2	20	13	70.0
大飛島	1.05	179	71	43.0	117	60	59.8	82	49	80.5
六 島	1.02	117	61	52.1	88	47	61.4	85	44	57.6
計	15.36	3,187	1,521	49.3	2,566	1,337	59.4	2,166	1,181	63.0

そこで、本市では平成 25 年度から平成 34 年度までの 10 年間を計画期間とする「笠岡諸島振興計画（第 2 次）」を平成 25 年 4 月に策定し、各施策を推進することによって、地理的・地形的な離島の特殊事情からくる制約条件を改善するとともに、島民、民間団体、行政が協働し、地域コミュニティの活性化に取り組むことにより、「いつまでも安心して住みつづけることができる笠岡諸島」の創造に向けて取り組んでいるところです。

本計画は、笠岡諸島における産業の現状を把握し、直面する課題への対応を図りながら、地域資源を活かした産業の振興や未来を担う人づくりなど、諸島の産業振興に取り組む計画であり、笠岡市の産業振興の基本理念である「笠岡のまちを豊かにする、多様なしごとが生まれる場づくり」を実現するため、産業の振興に関する方針を策定するものである。

## 2 計画の対象とする地区

本計画の対象となる地域は、離島振興対策実施地域である笠岡諸島（高島、白石島、北木島、真鍋島、小飛島、大飛島、六島）とする。

## 3 計画期間

本計画の計画期間は、平成 28 年 4 月 1 日から平成 33 年 3 月 31 日までとする。

## 4 対象地区の産業の振興の基本的方針

### (1) 笠岡諸島の産業の現状

#### 〔地域の特徴〕

笠岡諸島は岡山県の西南部に位置し、南は香川県、西は広島県に接し、大小約30の島々が南北に帯状に点在しており、そのうち高島・白石島・北木島・真鍋島・小飛島・大飛島・六島の7つの島が有人島です。それらの面積は、15.36k㎡、人口2,166人（平成22年国勢調査）で笠岡市全体のそれぞれ11.3%及び4.0%を占めています。笠岡市は全国の一部離島を持つ市の中で最も多くの島を持つ都市であり、いわば、島・海こそ最も“笠岡らしさ”を象徴している地域といえます。

また、笠岡諸島は古くから海上の要衝として栄え、穏やかな自然条件も加わり、伝統的文化・歴史を刻み、同時に石材産業の開発・海洋資源の利用・自然環境の保全等に重要な役割を担ってきました。

しかし、離島は海に囲まれ、また、その面積も比較的狭く、しかも、陸地部の経済・文化の中心から離れているといった地理的・地形的な特殊事情による厳しい制約のもとで、生活条件等の面で、未だ十分とはいえません。

離島の置かれた諸条件の制約は、生活・産業活動・教育・医療・介護・福祉等の高度化の立ち遅れを招き、陸地部における交通体系の発達・情報化社会の形成等と比較すると、今後も十分な整備を進める必要があります。

#### 〔産業の動向〕

産業構造は、第3次産業の比率が最も高く、続いて第1次産業、第2次産業の順となっている。

区 分	平成12年国勢調査				平成17年国勢調査				平成22年国勢調査			
	就業者 総 数	第1次 産 業	第2次 産 業	第3次 産 業	就業者 総 数	第1次 産 業	第2次 産 業	第3次 産 業	就業者 総 数	第1次 産 業	第2次 産 業	第3次 産 業
高 島	44	20	5	19	40	18	3	19	23	13	1	9
白石島	209	53	54	102	169	36	43	90	128	24	19	85
北木島	477	44	234	199	337	52	158	127	248	37	93	118
真鍋島	153	70	16	67	117	54	7	56	81	39	4	38
小飛島	1	0	0	1	3	1	0	2	5	3	0	2
大飛島	51	1	1	49	23	2	0	21	25	1	1	23
六 島	45	29	0	16	26	19	0	7	24	11	1	12
計	980	217	310	453	715	182	211	322	534	128	119	287

## 〔第1次産業〕

農業は、古くから温暖な自然条件を生かし、花きやみかん、エンドウなど、園芸作目に特化した主産地を形成していました。しかし、近年では農業者の高齢化等により、その生産も減り、耕作放棄地が増加しているのが現状です。その中で、白石島では養蚕用に植えていた桑畑を利用して、桑の葉茶や桑の実のジャムといった加工品を作るなど、6次産業化の動きも一部でみられています。

水産業は、漁業者の減少、燃油代や資材費の高騰、漁場環境の悪化、小型魚の混獲などにより漁獲高は減少しています。また、海域の栄養塩低下によるノリの色落ちや魚価の低迷により、ノリ、カキ、フグの養殖漁業への転換も進んでいないのが現状です。海洋牧場を生かし、稚魚の放流など水産資源の維持、増殖により漁獲高の向上を目指しています。

第1次産業については、従事者の高齢化や後継者の不足などの問題を抱えており、後継者の育成などを進めていく必要があります。

## 〔第2次産業〕

白石島、北木島は、石の島・花崗岩の島といわれ、良質な花崗岩が多く埋蔵されています。北木島の石材については、古くは江戸時代の大阪城の再築の際の石垣にも使用され、内陸の道路網が未整備だった時代に船を利用した海運により良質な石材を多く産出してきました。明治時代から本格的に石材採石業が起り昭和30年代には最盛期を向かえ、北木島では約127社、白石島では約60社が採石業を営んでいました。昭和45年前後からは、海外から安価な外国産の花崗岩の輸入量が増大し、採石業を営んでいた事業者は、廃業に追い込まれたり、石材加工業、あるいは石材小売業への業種転換を余儀なくされました。現在、採石業を営んでいる事業者は、北木島では2社、白石島でも2社となっています。

北木島では、北木御影石を使用した石材加工業が地場産業の中核となっています。しかし、最近では輸入石材の増大及び輸送コストの削減のため、本土に拠点を移す企業もでてきています。また、中国での石材加工技術の向上により墓石等完成品の直輸入が急増してきており、コスト面で輸入石材に太刀打ちできなくなっているのが現状です。今後は、石材の加工部門の充実強化を図り、付加価値の高い個性ある製品の開発を行い、石の魅力・可能性をPRしていくことが必要となっています。

北木島では、島内のNPO法人が、笠岡諸島近海で獲れた少量多品種で、大きさの不揃いの魚を、新鮮なうちに灰干加工して、販売しています。

また、白石島では、島民が株式会社を設立し、島に自生していた桑の栽培を開始しており、平成25年には、国の農商工等連携事業計画の認定を受けて、島で栽培した桑の実を加工原料とし、専門家のアドバイスを受けながら、岡山市の加工販売業者がジャム等の商品開発から販売を行っています。

さらに、倉敷かさや農業協同組合の声掛けにより真鍋島では、ゴーヤを島の特産品にするため、平成14年からゴーヤの栽培に取り組み、ゴーヤの実を出荷していま

す。そして、島内のNPO法人が、ゴーヤを加工し、ゴーヤ茶として島外の特産品販売店で真鍋島の特産品として販売しています。

### 〔第3次産業〕

瀬戸内海をエリアとする貨物輸送の海運業と海水浴、磯釣り、キャンプなどの入り込み客を対象とした旅館や民宿などのサービス業が主流を占めています。

しかし、年々観光客が減少しているうえ、夏季・日帰り型が多くなっています。このため夏季以外にも訪れてもらうこと、また滞在型観光地に向けた魅力ある観光メニューのPRを行い、修学旅行の誘致などを積極的に行っていく必要があります。

### (2) 笠岡諸島の産業振興を図るうえでの課題

#### 〔交通・輸送〕

- 島しょ部は高齢者が多く、少なからず船賃が生活費を圧迫している現状があり、経済的制約を受けている。また、人の運賃と同様に、物の輸送コストもかかることから、食品や灯油など生活必需品も割高となるため、負担の軽減が課題となっている。
- 港の施設の整備、近代化が十分ではない島があり、安全性や観光客の誘致などの観点からも対策が必要となっている。
- 島内道路については、島によって状況は異なるものの、部分的にしか整備できていない箇所もあり、消防・防災、ごみ・し尿の収集等に必要とされているため、整備が求められている。

#### 〔第1次産業〕

- 農地が急斜面にあり狭小なことに加え、不在地主の増加によって、耕作放棄地が増加している。
- 一部の島で花きやエンドウを少量出荷していますが、ほとんどが自家消費にとどまっている。
- 沿岸部の開発、水質の悪化による漁場や藻場の減少、無秩序な漁獲等により、漁獲高が年々減少している。
- 限られた漁場で安定した漁獲高を確保するためには、広域的な漁場管理、資源管理を行い、生産力を積極的に向上させる必要がある。
- 漁船漁業は時期によって収入にバラつきが見られ、年間をとおして経営を安定させるためには養殖漁業の一層の推進が課題となっている。
- 生活の安定を図るために商品の価格決定において漁業者の意思が反映できる販売の流通体制の確立が必要となっている。
- 高齢化と後継者不足により漁業従事者が減少しているため、後継者の育成や高齢者でも従事できる環境をつくる必要があるとされている。

## 〔第2次産業〕

- 北木島、白石島では石材業が盛んで、建築石材、墓石として全国に出荷していましたが、安価な輸入石材に圧迫されて採石業が衰退している。
- 北木島から産出される北木御影石は、靖国神社の大鳥居や日本銀行本店本館など全国の有名な建築物に使用されており、由緒のある産地である。北木石の産地のブランド化を図り、全国に情報発信し、付加価値を高めていく必要である。
- 白石島での採石業では、港から採石場までの道路が狭く、大型のトラックの通行に支障があるため、大きな石材を運ぶことが難しい状況にあるので、道路の整備が課題である。
- 石材加工業は人件費の安い海外へプラントを移したため、北木島の石材加工業の空洞化が進んでいる。そのため、墓石等の加工技術の継承ができず、後継者の育成が難しい状況である。
- 白石島では、島に自生している桑を栽培し、その果実を収穫し、出荷しているので、島内で加工、流通、販売等ができるような6次産業化の仕組みづくりが課題である。
- 真鍋島では、島で栽培したゴーヤを加工し、ゴーヤ茶として島外の特産品販売店で販売している。島内での加工量を増やすとともに、新たな販路の開拓とブランド化が必要である。

## 〔第3次産業〕

- 笠岡諸島は瀬戸内海国立公園の指定を受けた風光明媚な景観、各島特有の歴史や文化などの資源には恵まれています。情報発信が乏しく、また、島が点在しており交通アクセスが十分に確保されていないといった課題がある。
- 宿泊・飲食施設の後継者不足や施設の老朽化に伴うサービスの低下が課題となっている。
- 海外旅行客への情報発信、受入体制の整備に課題がある。

## 〔雇用機会〕

- 就労の場がなく、高等学校を卒業するとともに、若者が島を離れてしまう。
- 高齢化が進む中、各産業の担い手が減少している。また、移住者の定住促進のためにも、働く場の確保が必要となっている。

## 5 産業の振興の対象とする事業が属する業種

産業の振興の対象とする事業が属する業種は次のとおりとします。

- (1) 製造業
- (2) 農林水産物等販売業
- (3) 旅館業

#### (4) 情報サービス業等

### **6 事業の振興のために推進しようとする取組・関係団体との役割分担**

上記業種における産業振興に取り組むため、各主体が連携して実施する取組は、以下のとおりとします。

#### ○笠岡市

##### (1) 製造業

- ・市のホームページで対象地域における設備投資等の租税特別措置と固定資産税の課税免除を周知し、その活用を推進することで、企業誘致や設備投資の促進を図る。
- ・生産性を向上するための設備投資を行う製造業を営む中小企業者に対して、取得価格の一部を助成する。
- ・中小企業者の経営者や従業員の経営課題や技術課題を解決する能力向上を図るため、人材育成事業に対してその経費の一部を助成する。
- ・新たな分野に事業を展開するための経営革新計画を策定するため、専門家の派遣に係る経費の一部を助成する。
- ・空き工場の情報を収集し、進出希望事業者とのマッチングを図る。
- ・事業活動に必要な資金の調達を円滑にするため、市内金融機関と連携し、低利で借入れができる制度融資の整備を行っている。また、岡山県信用保証協会の債務保証付きで融資を利用する際、信用保証料の全部又は一部を助成する。
- ・株式会社日本政策金融公庫小規模事業者経営改善資金融資制度を利用した小規模事業者に対して償還利子の一部を助成する。
- ・地域企業ポータルサイト「かさおか夢ワーク」にて、事業所のPRや採用情報の掲載を行い、人材の確保に努めます。また、新規学卒者を採用した企業に対して、補助金を交付することによって、新規学卒者の雇用の拡大と雇用の定着を図る。
- ・市内の産業振興を図るため、新規創業者に対して、補助金を交付する。
- ・地域産業の活性化を図るため、新商品、新技術や試作品を製作する中小企業者等に対してその経費の一部を助成する。
- ・販路を開拓するために、中小企業者等が見本市や展示会に出展するための経費の一部を助成する。
- ・企業コーディネーターが企業訪問を行い、経営課題を把握し、各種相談に応じる。
- ・各種経営相談に対応するため、びんご産業コーディネーター（備後圏域連携事業）を派遣する。

##### (2) 農水産業（農林水産物等販売業を含む）

- ・過疎高齢化により耕作放棄地が増大する島しょ部の中でも、作付けや出荷のある白

石の桑の実・桑の葉，真鍋島のゴーヤ，飛島のえんどう，北木島のパンパグラス等の島の特徴的な製品の販路を拡大するとともに，加工可能な物については6次産業化を図るよう努める。

- ・六島の水仙植栽の取組は，耕作放棄地活用による景観整備，観光客等の誘致に発展しており，2次的な経済効果をもたらしています。今後も農業と観光の連携により都市部との交流を他の島へも広げていきます。
- ・産業的な観点だけではなく，高齢化の先進地として介護予防の面から，いつまでも農業を元気で続ける環境づくりをすすめることが，地域の活性化につながると考え，「農福連携」が図れるよう努めます。
- ・禁漁期間を設定したり，漁網の目を大きくして小さい魚を捕獲しないようにするなど資源管理型漁業を推進するとともに，メバル，オコゼやガザミなどの種苗放流やアマモ場造成などによる漁業資源の維持・拡大を図る。
- ・漁業集落の活性化及び漁家所得の向上を図るため，離島漁業再生支援交付金を活用して，海岸清掃や魚場監視など漁場環境の保全に取り組んだり，関係機関と連携して水産物のブランド化や水産加工品の開発支援に努める。
- ・水産基盤であるとともに交通や物流の拠点である漁港施設について，老朽化に伴う機能保全工事を行い，延命化を図る。

### (3) 観光・レクリエーション（旅館業を含む）

- ・フリーWi-Fiスポットを整備し，スマートフォン等でいつでも誰でも気軽にネットにアクセスできる環境整備に努めます。
- ・旅行業者等の現地視察や体験学習等を実施する事業者に対して助成金を交付したり，関東や関西等の学校や旅行会社を訪問し離島での修学旅行の魅力のPRを行い，修学旅行の誘致促進に努めます。また，修学旅行等の観光客の受入れ体制の強化を図るため，体験メニュー等の充実にも努めるとともに，観光ガイドや体験インストラクター，農業漁業体験民泊等の受入れ先の育成支援に努めます。
- ・市内飲食店を巡るスタンプラリー「ぐるっと博」に離島の旅館も参加を促し，観光客が気軽に旅館に訪れ，昼食を食べることができるよう支援します。
- ・観光資源・宿泊施設を整備する事業者や，観光商品を企画開発する事業者に対して補助金を交付することにより，旅館業の環境整備に努めます。
- ・井笠地域を始め，備後圏域や高梁川流域の広域市町と連携し，広域の観光ルートの開発に努めます。
- ・国際交流ヴィラを活用し，外国人旅行客の誘客に努めます。
- ・観光ボランティアガイドの育成に努め，地域全体での「おもてなしの心」の育成に努めます。
- ・案内看板の整備等，観光施設の環境整備に努めます。
- ・離島の玄関口である定期船待合所を整備します。

### (4) 情報サービス業等



- ・企業誘致の推進のみならず市民の効率的な情報収集・情報発信ができる環境づくりを目指し、民間企業と連携し情報の大容量化や高速化に対応できる情報通信基盤を推進するよう努めます。
- ・離島の空き家・空き工場等を利活用したIT関連企業のサテライトオフィス等の誘致促進を図るよう努めます。

## ○岡山県

租税特別措置法の活用促進，設備投資，雇用促進，産業育成のための補助金等，地域外企業誘致のための取組，産業振興（起業や事業高度化等）のための人材育成のための取組，漁業再生，雇用充実，通信等に係る事業

## ○商工会議所，漁業協同組合，農業協同組合

経営者研修等による人材育成の実施，経営指導，経営基盤の強化，異業種交流の促進等，漁場環境の整備・改善，漁業・農業用機械等設備投資への導入支援

## ○観光協会

離島観光ツアーの実施，PR活動の強化，農業漁業と旅館業の連携の促進，農業漁業体験等を組み込んだ観光プランの作成検討等

## ○かさおか創業サポートセンター

創業するための基礎的知識を習得する「かさおか創業塾」の開催や，創業から創業後までの経営相談，資金調達の相談等各種の相談，支援

## 7 計画の目標

計画期間中における製造業，農林水産物販売業，旅館業，情報サービス業における機械・装置，建物・附属設備，建築物の設備投資を支援することで，下記目標の達成を目指します。

区 分	新規設備投資件数（延数）	新規雇用者数
製造業	5 件	5 人
農林水産物等販売業	2 件	3 人
旅館業	3 件	3 人
情報サービス業等	2 件	2 人